

製品名: GPR56 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11692**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, ICC/IF 1:200-1:1000, ELISA 1:10000-1:20000
分子量	78kDa

抗原情報

遺伝子名	GPR56
別名	GPR56; TM7LN4; TM7XN1; G-protein coupled receptor 56; Protein TM7XN1
遺伝子 ID	9289.0
SwissProt ID	Q9Y653
免疫原	抗血清はヒト GPR56 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 251-300

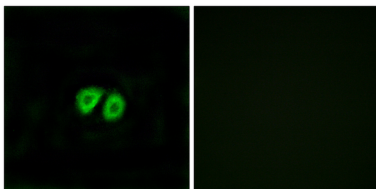
背景

この遺伝子は G タンパク質共役受容体ファミリーのメンバーをコードし、脳皮質のパターン形成を制御します。コードされているタンパク質は、腫瘍進行の抑制因子として関与すると考えられている組織および腫瘍間質の成分であるトランスグルタミナーゼ 2 に特

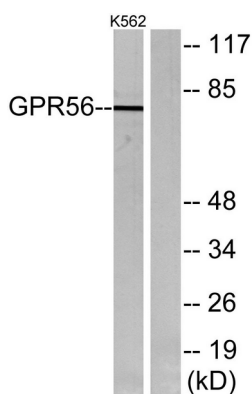
異的に結合します。この遺伝子の変異は、両側前頭頭頂葉多小脳回 (BFPP) として知られる脳奇形と関連しています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2014年2月],疾患: GPR56 の欠陥は、両側前頭頭頂葉多小脳回 (BFPP) [MIM:606854]の原因です。BFPP は、前頭皮質で最も重篤な皮質層構造の乱れを特徴とします。機能: 細胞間相互作用に関与している可能性があります。類似性: G タンパク質共役受容体 2 ファミリーに属します。LN-TM7 サブファミリー。類似性:1つの GPS ドメインを含む。組織特異性:広く分布し、甲状腺、脳、心臓に最も多く存在する。多くの腫瘍細胞で発現する。、

研究分野

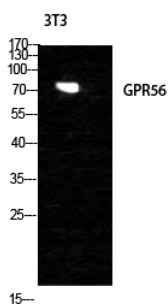
画像データ



GPR56 抗体を用いた MCF7 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



GPR56 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



GPR56 ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた NIH-3T3 細胞のウェスタンブロット解析